

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしやかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(第15期 第2年 第3回 第2日)
ぎじろく
議事録

1 日時 2025 (令和7) 年 12月14日 (日) 午後2時00分～5時00分

2 場所 川崎市国際交流センター

3 出席者

(1) 代表者 21人

(2) イトウ ユリカ キャレン、ウイ スー ケット、鎌田 ファチマ、ギーゼック
フロリアン、金 寿瑛、単 望舒、鄭 載勳、スン チン グアン、張 遙、朴
慧珍、ヒリストバ ガブリエラ、ブー ホン アン、プストフスキーフ
アナスタシア、古谷 史子、ポカレル ナラヤン、ポソ ミゲル アンヘル、
ポラニス キ ビョートル、楊 子宜、ラハマシ ジアウル、李 詞、ルイス
ジェームス

(3) 事務局

小出 課長、松長根 課長補佐、藤澤 係長、津金係長

4 傍聴者 4人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 議事

(4) 事務連絡

(5) 閉会

【全体会】

イトウ委員長「それでは、これから川崎市外国人市民代表者会議、2025年度第3回第
2日を開催する。今日は、ヒラノ委員、ヨザ委員、スチエタ委員から欠席連絡があつ
た。まず、日程と配布資料について事務局から説明をお願いする。」

(事務局藤澤係長より資料に基づき説明)

イトウ委員長「前回のまとめについて事務局から説明をお願いします。」

(事務局藤澤係長が資料1に基づき説明)

イトウ委員長「何か質問があるか。(なし)では、議事に入る。(1)欠員の補充について、事務局から説明をお願いします。」

(事務局藤澤係長が資料2に基づき説明)

イトウ委員長「御存知のように、ハンさんが辞めたことによる補充である。提言をまとめるこの状況の中でも補充するか採決が必要だ。補充しなくてよいという方挙手をお願いします。(全員挙手)では、補充しないということでそのまま進めていく。次に、2025年度年次報告書について、事務局から説明をお願いします。」

事務局藤澤係長「机上に置いてあるが、内容を確認して、修正してほしいとか要望があれば、12月21日(日)までにメールで連絡をいただきたい。」

イトウ委員長「何か質問はあるか。(なし)次に、イベントの参加について、事務局から説明をお願いします。」

事務局藤澤係長「2月14日の10時から16時、幸市民館で多文化フェスタさいわいが開催される予定で、参加する方を決めていただきたい。」

イトウ委員長「参加できる方、挙手をお願いします。」

フロリアン委員「みんなに伝えたいことだが、当日病気とかであれば仕方ないが、当日も参加できる人が手を挙げてほしい。」

ブストフスキー委員「内容はまだ決まっていないように理解しているが、それでいいか。」

事務局藤澤係長「そのとおり。」

ブストフスキー委員「内容を考えるのは全員か、それとも実行委員会のみか。そうであれば、参加者は、内容や準備についてはいつ頃わかるのか教えてほしい。」

事務局藤澤係長「内容は実行委員会中心に検討し、話し合ったことを報告し全体で共有する。参加者は、実行委員と一緒にアイデアを出していく流れである。」

ウイ委員「その流れでいいと思うが、イベント参加は決定されたのか聞きたい。」

事務局藤澤係長「前回の会議で、挙手して決定している。」

ルイス委員「以前飲食のイベントがメインで、とてもよかったのでまたやりたと思っていたのに、飲食が何でできないのか。」

事務局藤澤係長「直接担当者に、飲食ができない理由を詳しく聞いてみる。また、現時点で断れるものかどうか確認する。」

張委員「飲食提供できるかどうかは、交流イベントの趣旨とは違うと思う。」

ボソ委員「このイベントに参加するしないは、もう決めたことだ。それを変える必要はない。参加するとした上で、飲食可能であれば出せるが、出せない場合でも参加しても

いいのではないかと**思う**。」

イトウ委員「ここまでの皆さんの意見を聞いて、お茶を出せないという根底が変わってしまったので、参加するかしらないか決を採った方がいいという意見と、もう一つは、イベントに参加する趣旨さえわかっているればお茶を提供できなくてもいいという二つの意見が出たので、そのことについてはっきりさせたい。

まずは、飲食を提供できないので、参加はしない、参加しなくていいのではないかという方、挙手をお願いします。(挙手4名)では、飲食を提供できないけれども、イベントには参加した方がいいと思う方、挙手をお願いします。(16名挙手)」それでは、参加することで話を進める。

イベントは、2月14日10時となっているが、集合は何時頃か。」

事務局藤澤係長「準備があるので、30分位前には来てほしい。」

イトウ委員長「集合のイメージは9時半になる。9時半～午後4時半で参加できる方、挙手をお願いします。(挙手12名)」

ウイ委員「最初の質問で、けっこう積極的に手が挙がり期待したが、12名しか参加しないので落胆した。9時半から4時で12名、シフト制で前半後半で分けると、ギリギリの人数だ。最後のイベントとして、イベントの実行委員長としてちょっと残念な気持ちだが、是非行くという気持ちで挙手したと信じているので、最後のイベントとして盛り上げていきたい。」

事務局藤澤係長「本日欠席の3名には、事務局から連絡しておく。」

イトウ委員長「では、次に進む。オープン会議の振り返りについて、事務局から説明をお願いします。」

(事務局藤澤係長より資料5に基づき説明)

イトウ委員長「何か質問はあるか。(なし)それでは、部会審議に移る。全体会の再開は、16時30分とする。」

【多文化社会部会】

事務局藤澤係長「ヨザさんが仕事の都合で11月16日に部会長を辞任したので、本日は、まず部会長を決めてもらいたい。初めの進行は事務局が行う。部会長の役割としては、部会の進行、正副委員長・部会長会議に出席すること、あと4月に市長への提言の報告、ニューズレターの原稿作成などがある。選出方法は、立候補者と推薦された人両方を候補とすることができ、推薦された人は辞退できるという案である。部会長が決まるまでの代理議長として、副部会長の鄭さんをお願いします。」

鄭副部会長「立候補する人はいないか。(なし)いなければ、私が立候補する。他に誰か

推薦したい人はいるか。(なし) 候補者が一人なので、私を承認するかどう
うか伺う。私になってほしい方は挙手をお願いする。(挙手多数)
(鄭さん、部会長に決定)

ラハマ委員「副部会長が部会長になった場合、副部会長を決めた方がいいのか。」
事務局藤澤係長「副部会長は絶対に決めなくてはならないものではない。今回は、
決めなくてもよいという判断になった。」

鄭部会長「早速議事に入る。事務局から議事の説明をお願いします。

事務局藤澤係長「こちらの部会は、子育てとウェルカムセットについて議論している。い
ろいろな方向で議論される状況であるが、小学生から大学生までの
フローを作りたいという意見が多い。」

ギーゼック委員「フローチャートを作るのであれば、今日ぐらいに具体的に何を入れたいか
決めないと間に合わない。どちらのテーマも提言があいまいになっている
ので、具体的なことを決めないと先に進まないで、今日は具体的なことを
議論してほしい。」

事務局藤澤係長「フローチャートは二次元コードを並べただけでは中身が薄いものになっ
てしまう。安心生活部会も二次元コードを並べたものを作りたいとのこと
だが、提言を出した時に、二次元コードを集めただけになってしまうという
不安がある。二次元コードも必要だが、皆さんが不安に感じている子育てに
ついて、詳しい情報はホームページにも載っているが、両面1枚の紙で見
られるといいという意見ではないか。もちろん、事務局が作るものではない
ので、皆さんが具体的に載せたいものなど意見をいただきたい。今日、いく
つか資料を集めてきたので、皆さんに見てもらって、自分なりのフロー図を
イメージしてもらいたい。資料を配る。」

(事務局藤澤係長より資料に基づき説明)

鄭部会長「オープン会議の中で、教育委員会でも同じフローチャートみたいなものを
作っているが、確認しているかという意見があった。同じ川崎市の中で、私達は
教育委員会のものとかぶっても大丈夫なのか考えるが、皆さんはどう思うか。」

ギーゼック委員「具体的に何をしたいのか、何の情報を入れたいか、また、そういうもの
は本当にないか、そこから今日はやりたいと思う。すでにあるものをもう1回、
代表者会議が作ることに意味があるのか、私は聞きたい。」

鄭部会長「すでにあるのに、もう1回作ろうとしたら、そこまでの説得力はないかと懸念
している。」

ブー委員「皆さんご存知のように、資料はたくさんある。フローチャートもいろいろとある

がまとまっていない。だから、まとまった形で一気に案内したい。そのため、すでにあるものも一緒に入れて1つにまとめ、二次元コードを読み取れたらすぐに情報がでてくるものを作りたかったのではないかと。1つにまとめて、今までなかったものだというような提案をしたらよいと思う。」

ウイ委員「このフローチャートはいいと思うが、何歳、何歳しか書いていなくて、実際4月から計算するとか、そういうことが何もない。人生ゲームみたいな感じで、4月にこの年齢であればこれを準備しなさい、詳細はバーコードを見てください、そういうのが1枚で何を準備するかというのがあればいいというのが最初の議論だったと思う。あとは、きちんと周知できるかという問題がある。市内の小学校・中学校に置いてもらう、入学・転入時にきちんと渡す、ウエルカムセットに入れるとかあるが、そこは別途議論すればよい。1枚で全部は網羅できないので、どこまでやるか、そこが議論のポイントになると思う。」

古谷委員「いろいろな情報を全部載せられるのかとずっと考えていた。年齢の問題、そして制服のこと、例えば中学2年で転入してきた子どもは制服を買うかどうか、学校によってはリサイクルもある。日本語指導等協力者派遣のこと、高校入学の在県外国人等特別募集制度のこと、学校は何校ある、定員は何人、進学の際にはルビを振ってくれる、面談の時にはゆっくり話してくれるなど、いろいろな情報を全部入れられるか。皆さんが要望することは、どの程度入れられるかなと思う。」

鄭部会長「皆さんが今困っているのは、全体のフローではなくて、フローの中の点々が欲しいということ。やりたいのはフローチャートではなく、ある時点で、必要な時期に必要な情報が欲しいということだから、今までの子どもが生まれて高校、大学、就職まで流れを表すフローチャートと合っていないかなと思っている。」

ジェームス委員「例えば、この資料は、日本では当たり前の「4月スタート」を前提に書かれている。イギリスは「9月スタート」である。

鄭部会長「あるものに情報を追加していった方が、皆さんがやりたいものに近づくのではないかと。私たちはフローチャートを作りたいのではない。」

ジェームス委員「個人的には、やりたいものに近づいていると思っている。」

鄭部会長「何の情報を入れるか決まらないから、フローチャートを作るかどうかを決めた方がいいと思う。」

朴委員「私もフローチャートにこだわる必要はないと思う。情報がとても多かったが、結局、外国人として必要な情報は、基本的には日本の中では常識というものが多いという印象を受けた。大きいフローチャートを作るのではなく、これぐらいのもので、後ろに少し補足説明があるようにして、何か困ったときに二次元コードを

読み取って情報を見られる形がよい。」

ブー委員「これは、あくまでも学校の種類だけだ。これだけでは情報が足りない。」

朴委員「それに少し追加説明を入れる。」

事務局藤澤係長「サイズのA4、1枚程度か、それとも冊子にするか。」

ウイ委員「A4、1枚で。」

ブー委員「A3でもいい。」

フロリアン委員「みんな、何となく頭の中のイメージが違うので、今度の会議に向けて、

きれいに整えて、事務局に準備してほしい。」

ブー委員「事務局ではなく。僕らが作らないと。」

朴委員「追加したいものが何かを、みんな把握できていないと思うので、それを先にやった

方がよい。」

鄭部会長「フローチャートをどのような形にするかは、その後の話で、そこに何を入れるかをこの場で決めておかなければならないと思う。もう時間がないので早めるが、4月入学という情報がないから入れたい、修学旅行などお金が発生する時期を入れたい、制服の費用を入れたい、ランドセルのお金のことを入れたい、そのような情報を今日リストアップしておかないと、1か月後にまた同じ話になると思う。」

ギーゼッケ委員「紙に書いて、年末までに準備して、事務局に送るのがいいのではないかと
思う。場合によっては、どこか特別に、会議以外のところで話し合わなければ
ならないかもしれない。」

ブー委員「私達が考えているものを事務局に送ってまとめてもらうということで、事務局
はいいのか。」

事務局藤澤係長「まとめるのはいいが、まとめる形はこれでよいか。」

ラハマン委員「フローチャートも詳しく書いてあるので、1ページ追加すればいいのでは
ないか。制服や行事などは、学校によって違うこともあるので、統一することは
難しいと思う。情報はあった方がいいが、情報が多すぎても読めない。これ
は自分のためではなくて、川崎に住んでいる5万人以上の外国人のために作
っているもの。子どもがいるかいないか、それは関係ないと思う。」

ジェームス委員「私は関係があると思う。ランドセルや制服などコスト的な情報は、先に
知りたい情報だ。」

鄭部会長「フローチャートは、何が正解か、人によって必要な情報が違うから統一できな
いという話ではなく、自身で困ったものを、一度文章化して提出してほしい。

その後、必要なのか、要らないのかをみんなで決めればよいと思う。」

フローチャートの件は、一旦終わらせて、ウエルカムセットに移る。」

事務局藤澤係長「事務局からのお願いとして、表に何を追加したいのかが1点、もう1点は、小学校・中学校・高校・高校に入学したらという4つの場合分けで両面になっているが、ここに何をに入れてほしいか、それを12月24日までに送ってほしい。」

ギーゼッケ委員「他のメンバーのイメージを知りたいので、事務局に届いたものを配布してもらいたい。」

事務局藤澤係長「まとめる前に、皆さんから送られたものを配る。」

ウイ委員「A4 1枚がわかりやすので、詳細はここでA4にすればよい。日本語支援の文字数が増えているので、日本語支援を減らして、皆さん聞いた意見を基に入れるのと、詳細はこちらと一言入れればいいものができると思う。事務局の負担も少なく、皆さんも書きやすいのではないかと。もう1点、本当にウェルカムセットをやるのか、もう一度議論したい。教育のところに注力した方がいいものができるのではないかと。」

鄭部会長「では、ウェルカムセットに移る。始める前に、オープン会議の時のことであるが、最初に何を話すかはしっかり提示していなかったのがバラバラになり、いろいろな意見が出てしまい申し訳なかった。私がきちんと説明してなかったため、私の責任である。オープン会議では、話が3つぐらい出たと思う。1つは、二次元コードを使って簡略化する、もう一つは統一化、標準化しようという話、あと一つは、紙や資料はたくさん配ってもいいのではないかとという話がバラバラにあって、オープン会議前に、私たちの頭の中で整理されていなかったから話がいろいろになったと思う。今回、それを先に決めないといけないと思っている。もしくは、フローチャートに集中して、この話は要らないのではないかとということにするのか、皆さんの意見で決めたい。」

古谷委員「先日、川崎区役所に行って、ウェルカムセットについて色々聞いてきたので、お話ししたい。ウェルカムセットは、外国人向けではなく、入居する市民みんなに配っているもの。」

事務局藤澤係長「川崎区は、外国人か日本人かは、見た目では判断できないし、日本語が流暢な人もたくさんいるので、外国人用、日本人用と分けて作っていないということであった。行った時の報告書を配る。」(古谷委員が報告書に基づき説明)

ギー委員「ウェルカムセットをもらわなかった人に対して、あとで区役所に行ったらもらえるのか。」

事務局藤澤係長「もらえる。」

ギー委員「もらえるのであれば、行ってもらえばいいという話で、これを議論する必要が

あるのか疑問だというのが私の意見だ。」

ラハマン委員「ウェルカムセットは、日本人でも外国人でもみんなのために作っているものであるが、たぶん困っているのは外国人だと思う。個人的には、一応提言に入れた方がよいと思う。」

鄭部会長「提言に入れるとしたら、どのような形で入りたいのか。」

ラハマン委員「一旦二次元コードにしたい。しかも、紙も残してほしい。標準化のことは、区によって必要な情報は違うので、各区の実情に応じて決めればよいと思う。」

ウイ委員「前回、前々回も最後に議論になったと思うが、ウェルカムセットは非常に範囲が広いので、スンさんが最初に提案した標準化というのはある程度ベースのところは一致させて、その後は必要であれば各区に追加してもらってもいいという話であった。しばらくすり合わせができていないので、一度すり合わせをしようという提案と、それを定期的にすり合わせをして更新していくという話で、そのような話以外であれば、提言はやはりやめた方がいいというのが私の意見だ。もう一つの部会ではマグネットの活用という話もあるので、そこに便乗して、マグネット化の中にウェルカムセットも入れればいいのではないかと思う。」

鄭部会長「ウェルカムセットに関して、今の時点で何を入れる。どうするという議論するタイミングは過ぎている。ウェルカムセットを提言するか決めないといけない。二次元コードは、もう一つの部会に任せるという形で、提言するか、しないか決める。提言したい方は、挙手をお願いする。」

スン委員「二次元コードですね。」

鄭部会長「二次元コードではない。ウェルカムセットの話自体をどのような形にするかは後の話で、ウェルカムセットを提言として扱いたい人は挙手をお願いする。」

スン委員「ウェルカムセットは標準化か。」

鄭部会長「標準化するかどうかは後の話だ。ウェルカムセット自体を残したい方は挙手をお願いする。(挙手2人)残したくない方、挙手をお願いする。(挙手5人)今回、多文化社会部会は、フローチャートの方で話を進めたいと思う。フローチャートでまとめて結果を出すことで、皆さん、大丈夫か。」(はい)
フローチャートの皆さんの頭の中で考えているものを共有したい。」

ブー委員「紙を3つ折りにして、表面と幼稚園、小、中、高、大で6面で全部まとめたい。」

ウイ委員「フローチャートにこだわってなくて、幼稚園、学校の時々で何を準備、手続きしなければならぬことを、時間軸でわかればよいと思う。たぶん、今後の皆さんの意見を書いたものから、どれを入れるのか、そういう話になると思う。」

ブー委員「両面で、幼稚園、小・中・高・大で6面で、事務局が今まで作ってくれた内容を入れるだけで終わりではないかと思う。」

スン委員「フローチャートのイメージは、0歳から18歳までのへびみみたいな形。最初にフローチャートの構造を決めて、次に何を入れるかに進む。それが私の意見だ。」

古谷委員「骨はできている感じはするので、どこまで肉を入れるかという問題だと思う。」

朴委員「一目で過程がわかるようになればいいということと、補足の説明が裏に追加であるといぐらいのイメージで考えていた。」

ウイ委員「これから、必要なことを入れていくと思うが、みんなの意見を入れると、すごい量になってしまうので、忘れると困る、特に収集がつかない、リカバリーできない、例えば手続きが遅くなったらもう終わる、健康診断が遅れたらなど、本当に困るものをベースに考えた方がいいと思った。」

鄭部会長「皆さん、フローチャートに入れたい内容を事務局まで送ってください。本日の部会はこれで終了とする。」

【安心生活部会】

単部会長「全員が揃ったので、早速部会審議に入りたい。手元の提言案の資料であるが、主に、4つの提言項目がまとめられている。1つ目と2つ目は、地震と風水害の避難所運営マニュアルに、クリアが作った後に、多言語ツールを活用するということで、既に何回も審議してきたものなので、今日は時間をかけずスキップしていきたい。皆さんと審議したいのは3つ目と4つ目で、3番目の、川崎市国際交流センターが企画している市職員向け災害時外国人支援ボランティア養成セミナーに外国人市民も一緒に参加する機会を作れるようにするというのは、オープン会議でも、市職員向けの研修の内容は、一般市民と違うのではないかという意見をいただいた。したがって、新たに市職員向けの研修を、市に作ってほしい、どのような内容が作れるのか、どのようなものを研修してほしいのか、今日の会議である程度決めないと、研修の提案ができないと思うので、私が個人的に考えたことと、皆さんの意見を合わせて、この提案を仕上げていきたい。4つ目は、防災と災害の情報をもとめて新しい成果物を作る。1から作るのには現実的ではないので、事務局の提案としては、既に配っている、「備える。かわさき」というマガジンの特別号の後ろにいろいろな取組がまとめてあり、二次元コードもあるので、新しい成果物ができないのであれば、成果物として、この資料を多言語化、やさしい日本語版を作って、市に提案してはどうかと個人的に思っている。皆さんの意見を聞きたい。」

イトウ委員「この1番と2番に入っている表現のところで、「多言語ツールを入れてもらうのがよいと考えます」「感謝しつつ」という部分が、私たちの提言はどのようなポジションなのか。何か意図があってそう表現しているのか、確認したい。」

単部会長「事務局が作った資料であるが、皆さんが適切でないので直すとなれば、事務局と相談する。」

事務局小出課長「特に意図はなかったと思う。へりくだった形の文章になっているが、基本的には、ですます調で対等な形でだしていただくのが正しいと思う。」

プストフスキー委員「資料に、携帯トイレを十分な量を用意しておく必要があることに驚いたと書かれているが、私達の提言は、もう少し大きな課題なので、トイレの話まで入れる必要があるのか、疑問に思う。」

金委員「災害時外国人支援ボランティア養成セミナーの文書が途中で切れている。」

単部会長「市職員向けに新しい研修を作って定期的に参加してほしいという話があったが、事務局に一度持ち帰ってもらい、危機管理本部を相談して実際どのように表現するのか、次回1月の会議で、研修内容を固めていきたい。」

イトウ委員「3番のセミナーの部分は、私のイメージは、外国人が困らない程度にわかりやすい、やさしい日本語を使ったり指さしでチェックしたり、幅広くわかってもらうための研修と考えているが、皆さんとイメージを共有することが大事だと思う。1つ思ったのが、時間的に集まるのは大変だと思うので、例えばラーニングとか、自分の時間でやってください、年に1回は必ずやってくださいという提言の内容にすれば、かなりハードルは下がって、私たちの言いたいことを受けてくれるのではないかというのが、もう1つの案かなと思っている。」

単部会長「少し補足であるが、もともと事務局に頼んだのは、区役所の、実際避難、災害担当する部署に研修してほしいという話であったが、本当に災害が起こったときは、危機管理本部や区役所の危機管理担当ではなく、一般の市職員や区職員の人達が実際現場に行くようである。一般の職員が、災害、防災が実際発生したときには、どのように外国人市民に接するのか、どのように対応するのかということを研修していただきたいと思う。防災の対応について、ある程度、20%、30%でも、意識を持っていただければ、いざ災害が発生したときに、外国人市民も避難所にいるので、研修を受けた内容で対応できるとよい、そういう成果が出るのであればよいと思っている。」

金委員「確認であるが、市職員と外国人市民も一緒に研修するのは難しいので、今後も市職員に対する研修に一本化するという方向で合っているか。」

単部会長「はい。私のイメージは、市職員向けに、外国人向けに対する、防災と災害に対す

る研修を、せめて1回は受けてほしい。どういうものを研修してほしいのか、多言語支援の手引き2023、2年前の資料だがクレアが作った資料、これが結構いいものなので、これを基に、研修の内容を作ってもらえれば、例えば、決まった時間と場所で全員研修を受けることが難しいのであれば、キャレンさんの提案のように、学習資料を作って、一定の期間で、1年間以内で、必ず全員が受けるという仕組みを作っていたいただければいいのではないかと思う。」

ブストフスキー委員「市職員の皆さんは、防災に関する研修を、必ず受けなければならないという決まりなどあるのか。」

事務局小出課長「実際、地震の時と風水害の場合とは対応が異なり、風水害の一時避難所には100%市の職員が行き、地震の時の避難所は、地域の方の運営がメインとなるが、それぞれに指示を出すのは区の危機管理担当職員である。外国人が避難所に来た時に困らないような対応の研修をしてほしいという提言が出た時には、区の危機管理担当が集まるような危機管理本部主催の会議で周知し、区の危機管理担当職員から、避難所開設前の説明会などで、避難所に派遣される職員に対して周知すれば、一応全部伝わるかと思う。危機管理本部と調整できたらと思っている。」

イトウ委員「2017年に、防災の提言が出ていて、最初1回はAにはなるが、フェードアウトしていくのかと、そこが不安だ。新たに提言するのであれば、フェードアウトしない形で、みんなの声を上げたい。」

単部会長「避難所の運営マニュアルに、クレアの多言語ツール活用を入れることは、ほぼ決定ということで今日は先に進む。3番目の市職員向けの研修は、先ほど議論していたが、4番目、防災情報の外国人市民への広報の強化について審議したい。」

(資料の事務局案を読み上げる。)

単部会長「『備える。かわさき』の特別号の多言語化と、『備える。かわさき』の37ページの資料を、災害の前と災害時、災害後の3つの段階で、作り直していただきたいと、個人的に思っている。」

ヒリストバ委員「時間もお金もかけて作った資料だと思うので、もう少しわかりやすいものとか、短いバージョンを作してほしいという提言にしたら、恐らくずっとBのまま。そのような提言より、私達で作って、これを活用してくださいという提言がいいと思う。情報が足りないのであれば、話し合ってもいいかなと思う。」

単部会長「他の既存の情報を盛り込んで、再度デザインした上で多言語化するという意見

があるのであれば、それもいいと思う。」

金委員「4番の文章を見ていると、多言語化や、やさしい日本語というのは入っていないくて、ウェルカムセットに入れる資料にしてもらいたいと思うとなっているが、これは、少しアバウトな感じがする。」

単部会長「多言語版を作ったら、市のホームページへの掲載やウェルカムセットに封入、あとは多文化共生プラザなど外国人市民が多く来るところに設置したり、入手しやすくする工夫をするような提案をしたいと思う。」

ヒリストバ委員「私達が多言語化しようとなった場合の話であるが、多言語化したので活用してくださいという形にするのか決めなければならない。」

単部会長「イメージとしては、災害の内容を作るのは恐らく難しいが、多言語化するのであれば中国語は問題ない。残りは、皆さんに協力していただきたい。」

ヒリストバ委員「私達から多言語化してください、セミナーに参加してくださいというのは一方的に言っているように感じるので、私達もできることをしたので活用してくださいという方がいいと思う。前期も12か国語でみんなで行ったので恐らくできると思うが、時間やスケジュールもあるので、翻訳するかどうか決めた方がよい。」

張委員「私も、初めて日本に来た時は、ごみ捨ての資料など読めなくてわからない部分があったが、携帯の翻訳機能を使ったり自分で調べたりした。すべてやさしい日本語にして、みんながわかるようにするのは有り難いが、時間もお金もかかるので、翻訳というより、周知が大事ではないか。まずは、こういうものがあるということを伝えて、わからなければ調べてもらうというスタンスでよいかと思う。」

単部会長「時間もないので、まず、「備える。かわさき」の多言語とやさしい日本語化するかどうか、あとは内容的に入れてほしいものがあれば、まず決めてほしい。」

楊委員「少し追加したらよいと思ったのは、避難所運営の多言語指さしボードやクレーアのものなど、既存の外国人向けの資料とか、震災になった時には、こちらのリンクにアクセスしてくださいというのもよいと思う。」

単部会長「追加する場合は、誰が作るのか。仮にレイアウトを変更した場合は、誰かがやってくれるのか。」

ヒリストバ委員「私は作れる。」

イトウ委員「備える。かわさき(マガジン)」に7個の二次元コードがあるので、その情報を手分けして確認して、必要かどうか決めたらよいのではないかと。」

金委員「Xは、100以上の言語に対応している。」

張委員「マンション、集合住宅での防災のページは、市のページで、英語、中国語、繁体語、

韓国語、ポルトガル語、スペイン語、やさしい日本語もある。中国語の翻訳は、違和感ある箇所が多少ある。新ページの翻訳ではなく、一般的なブラウザの翻訳の方がいいと思う。」

ポラニスキ委員「メールニュースの作品に関しては、日本語と中国語、韓国語、英語しかない。やさしい日本語がない。多言語されているのは、恐らく天気予報ぐらいである。もしも何か切る必要があれば、ここは最も切ってもいい。」

プストフスキー委員「提案としては、今回は、これをそのまま翻訳する。それに追加する文章としては、次回以降更新するときは、在宅避難のリンクも入れてほしいとするのはどうか。」

イトウ委員「私達が提案だけして、次の人に頼むような提言は難しいと思う。」

金委員「まだまだやりたいことはたくさん出てくるけれど、今できることは、このまま訳すことかなという気がする。」

張委員「提言としては、封入とかウェルカムセットの中に入れるだけでいいと思う。」

ヒリストバ委員「あと、私達が翻訳したものを活用してくださいということを入れる。」

張委員「4番の広報を強化するという意味合いなので、封入されれば、広報の強化になる。」

ヒリストバ委員「多言語化せずだと、提言としてはすごく薄く感じる。」

張委員「提言を厚くするのが目的ではない。運営の仕方も薄ければ削除してもいいと思う。」

ヒリストバ委員「それを削除したら、さらに薄くなってしまう。」

張委員「もう1つの部会と合わせて、厚くしてもよい。」

イトウ委員「恐らく、同じ熱量で話していないので、合わせるのはいない方がいいと思う。」

私達が最後まで責任を持って、提言として入れるのか入れないのか議論した方がよいと思う。」

金委員「多数決した方がよいのではないかな。多言語化するか、もしくは、何か、第三の選択肢で、やさしい日本語版だけ作るとか。」

単部会長「まず、多言語化するかどうか、決をとる。資料はこのままで、多言語にすることに賛成の人は拳手をお願いする。」(拳手多数)

単部会長「追加で、やさしい日本語版だけ作る。」

イトウ委員「このままでよい。」

単部会長「内容的には、「備える。かわさき」特別号の多言語化が決まったが、翻訳はどうするか。部会だけでやるのか、それとも全体会か。」

ヒリストバ委員「全体会がよい。この後の全体会の報告の中で、こういう方向性でいくことを伝えられる。私達と違う言語をできる人もけっこういる。」

単部会長「色々な言語のボランティアを募集する。日程的には確認して、皆さんに連絡す

るといふ形にする。研修については、今日はほとんど話が出なかったが、私の提案としては、クレアが作った防災・減災のための多言語支援の手引きを基に、市に研修内容を作ってもらい、年に1回、市職員向けに研修を実施してもらいたい。

できるかどうか、事務局に危機管理本部に確認してもらわないとわからないが。」

金委員「その研修は、オンラインという認識か。」

単部会長「正副委員長会議の時に、決まった場所で決まった時点でやるのは結構難しいと聞いたので、オンライン学習しかないと思っている。」

事務局小出課長「オンラインではないが、すでに定期的な危機管理本部と各区の危機管理担当が集まる会議は、毎月定期的に行っている。その会議で年に1回、多文化共生推進課と危機管理本部から、外国人市民が避難所に来た時の対応について、区の危機管理担当職員に周知する。この危機管理担当職員は、避難所開設になった時には、避難所に配置される職員に対して、こういうことに注意してくださいと周知する、その流れができると思っている。研修といえば研修だが、どう表現したらよいか。」

イトウ委員「研修というと、机に座って勉強するみたいなイメージになるので、違う表現があるのであれば、他の表現を使いたい。」

単部会長「外国人市民がいるから気をつけてくださいという周知は、研修の意味とは違うと思う。ある程度内容を決めて、現場の職員達が、その内容を読んで勉強すれば、研修を受けたイメージではあるが、この資料を勉強していただきでは、実際勉強したかどうかもわからない。」

事務局小出課長「クレアの資料はあまり読んだことがないが、どのような内容なのか。」

単部会長「災害時外国人避難の支援について、たくさん内容が書かれている。」

事務局小出課長「外国人支援のためには、こういうポイントが重要とか、このようなツールがあるので知ってほしいとか、そういう内容か。」

単部会長「そうですね。少し意識して勉強して、方が一の災害時には現場の職員がよりうまく対応できるよう、せめて年1回研修してほしいという趣旨である。」

事務局小出課長「危機管理本部と調整する中で、どういう研修なのか、現実的にできる路線を調整できればと思う。」

張委員「1つのアイデアであるが、各区役所で毎年必ず防災訓練をやっていると思うが、例えば、防災訓練の中でブースを作って、マニュアルの内容やピクトグラムなどの展示をしながら、市民達に説明すると、外国人市民だけでなく、避難所に来る日本人もいるので、みんなに周知できる。防災訓練は毎年必ず行うものなので、研修ではなく勉強として行うのがいいと思う。」

金委員「私の会社では、eラーニングのようなものがあり、いつまでに受講するようメールが届き、受講しないと未完了となる。eラーニングのフォーマットのようなものがあると思うので、それを使ってやれば、それほど手間もかからないのではと思う。」

単部会長「実際に災害が発生した時に、避難所運営と直接関わる職員に参加してもらいたい。」

事務局小出課長「そこをつなぐ人間は、区役所の危機管理担当なので、そこから流さないと流れていかない。」

イトウ委員「現場に少しでもつながっている人に、eラーニングを受けてほしいというのが、私達の意見である。」

単部会長「少なくとも、災害に担当する市の職員が、全員でなくても、一部、本当に周知する機能を持っている方のみ参加してもらいたい。最低限の学習と研修は本当に受けてほしい。」

イトウ委員「eラーニングを受けられる、受けられない人と、先ほど話が出た、ここでやってねと言った方が裾野まで周知できるというイメージが事務局と共有できていない気がする。そこを共有できるように、私達が何を研修、何に対してやってほしいのか明確にしないと、クリアのここから適当に勉強してくださいというのは、伝わらないと思う。だから私達も、こういうことに気をつけてほしいとか、ここはもっと強く伝えろとか、時間がないが、そこをやらないといけないう思っている。」

単部会長「今日は、この研修の話は決められないので、次回の会議までに事務局と相談して、どういう内容にするか、どういう形であれば実現できるのか相談して、次回で本当に提言に入れるかどうか決めていきたい。」

ヒリストバ委員「次回は来月1月になるので、オフ会ではないが、みんなでもう一回、LINEなのか、ZOOMなのか、小出課長を含めて、オンラインで話し合った方がよいのではないか。」

イトウ委員「前期も本当に時間がなくて、みんな思いはあるけれど、いろいろな疑問など、そのようなことをぶつけるために1時間くらいオンラインで話し合った。そこでまとまったものを部会長がまとめて、事務局と調整した。このスケジュールだと恐らくまとまらないので、年末で忙しいと思うが、どこかで時間を作ってやった方がよいと、私も思う。」

ヒリストバ委員「年末もあるが、年始の早い段階で1時間くらい話し合うのはどうか。」

単部会長「研修について、どういう内容にするのか、正副委員長会議の前に決めて、事務局と相談する形にしたい。」

ヒリストバ委員「その会議は、いつなのか。」

イトウ委員「1月8日。」

単部会長「話し合う日程については、確認して、皆さんに通知する。では、審議を終了する。」

【全体会】

イトウ委員長「全体会を再開する。まずは、多文化社会部会から報告をお願いする。」

鄭部会長「多文化社会部会では、主に2つの提言案があったが、子育て教育に関しての話では、フローチャートに困っている内容を具体化して、明確化していこうと思っ
ている。困っている内容で、入れるか入れないか、そういう文章の数がどれくらいあるかによって、フローチャートの形も変わっていくと思うので、それをこれから決めていこうと思っている。残り時間が限られているので、ウエルカムセットについては今回やめて、子育てフローチャートに集中して提言をまとめることにした。ただし、ウエルカムセットは、ずっと出ている話で、今後もそのような提言が出るかもしれないので、今回の話をまとめてどのような状況でどう話し合われたかということを残して、次に引き継ぎたいと思っている。何か質問はあるか。」(なし)

イトウ委員長「ありがとうございます。では、次に、安心生活部会の報告をお願いする。」

単部会長「まずは、提言案の中の、避難所運営マニュアルにクレアが作った多言語ツールの活用は決まっているので、本日の審議は省略した。2つの提言の項目案を審議したが、1つは、市職員向けの外国人の防災に関する研修について、具体的にどのような内容を入れるのか、どういう形で研修を行うか、市の職員達の時間とリソースというところで難しい部分があるので、これからオフラインで1回、部会の皆さんと話し合ってから、次回の正副委員長会議で事務局とも相談させていただく予定である。2つ目は、防災情報の広報を強化するという項目について、2024年12月発行の「備える。かわさき」特別号に、市の取組がまとめてあり、その資料を多言語化するということを、今日の審議で多数決で決定したので、これから進めていきたい。その資料のリンク先で多言語対応されているか、やさしい日本語があるかどうかの確認もした。今日審議した内容をベースに、次回1月の部会審議で、最終的な提言案を修正して2月に完成するという流れで進めていきたい。何か質問はあるか。」(なし)

単部会長「1つ言い忘れたが、この資料を多言語に翻訳する場合は、なるべく多く多言語化したいので、こちらの部会だけではなく、皆さん全員で翻訳ボランティアに積極的に協力していただきたい。どのような資料をいつまでに翻訳してもらうか、別途皆さんに連絡させていただく。」

イトウ委員長「今日の議事は以上である。」

【事務連絡】

イトウ委員長「事務局から事務連絡があればお願いします。」

事務局藤澤係長「1月17日(土)、第4回川崎市長ポッチャ大会開催予定で、外国人市民代表者会議から3グループ応募して、かなりの応募数があった中で、1グループ出場することができることになったので報告する。グループの委員は、フロリアンさん、張さん、ウイさんの3人、是非頑張ってもらいたい。お時間のある方は、是非応援に行ってもらいたい。集合時間などは、後日連絡する。」

イトウ委員長「以上で今日の日程は終了とする。次回の会議は1月18日、日曜日、ここ国際交流センターで開催する。これで2025年第3回第2日の会議を終わりとする。」